
kood//purasu

閃光の白雪

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

kood/purasu

【Nコード】

N1944L

【作者名】

閃光の白雪

【あらすじ】

すべてを疑え！すべてを倒せ！

このただのオンラインゲームkoodpurasuは意識不明者です。だす凶悪な

ゲームへと進化してしまった！そしてハセオのたどる運命は・・・
いつか仲間という存在に守られていく

(前書き)

このゲームで今いたい何が起こっているのか!?
ハセオはそれを知るため強くなった仲間をすてて・

時は2999年人類が進化を初めだした時代
ぴゅんぴゅんぴゅん音がする。

この時代はゲームが発達した、「オンラインゲーム」
「kood/purasu」<コードプラス>

第1「意識不明そしてトライエッジ」

ぴゅんぴゅんぴゅん、顔が作られた、腕、足、胴体、できてきた
名前は………そうだ、「ハセオ」でいいのか。
しゅーん、ふうーやつとできたー。

このゲームは、特殊なものを使い声までもが相手に伝わるとい
うことになっている。

……このゲーム手足<テアシ>自由に動かせるのか。

「ロゲイン」これが

ふうーん、まるで自分が動いているような感じだった。

へーすっげーめちゃくちゃこつてるじゃん

「友達登録？ああ友達を登録する奴か……1人もいないし」

「きみきみ、初心者でしょ？俺たちが案内してあげるよw」

優しそうな人たち、「あ、えとありがとうございます。」

「うんうん、じゃあ、このエリアに行こう！さあPT<パーティー
メンバー>をくんでくれw」

くむのかあ〜

ブウンブウンブウン「うわあ、草原エリアか〜いいねー」

………敵って強すぎじゃん………

「まーまー、そういわないで俺たちがいるんだから〜」

ここだよ、指をさしたのは神殿？だった

「ここは？」「エリアには2種類あるんだよ。1つはボスを倒して

終了2つ目は敵を倒して鍵を手に入れ

神殿にいくんだよw「ふうん・・・

ごおおおおおおおん！「おお！なんかすげえ！」

タツタツタツ「宝箱だ、」ピーン「やった、これでしゅりょ・・・」
ガッ！

剣がのど元にさされる「え・・・？これ・・・は？」

「うふふふ 俺達はねPK<プレイヤーキラー>って言うんだよ。」
え・・・意味わからなかった。

ズグ！倒れんこんだ・・・まわりが暗くなる。

「そらっ！とどめだ！」ガ！「どうした？・・・きゃ！」

「なんだよてめえ！このやるおおお！」ごおおおおおん！
ふっふふ、これはいい。

誰だこいつは俺は連れて行かれる？やめろ！はなせ！・・・ス
ウー終わった

1「奴は現れた」

時は3000年あれから1年ハセオはいた・・・PKK<PKキ
ラー>として！

「きゃあ！や・・・やめてよお」「くくくひゃーっはっはっはっは
っ」

はじめたばかりであろうプレイヤーがPKされている・・・

「ふっ」

「あーあ！雑魚ばかりでつまんねえなあ！」

そこには、ギルド「ケストレル」のメンバー・・・役20は入るだろう
どが！「うわっ」とと・・・なんだてめえは・・・お、お前は！」

1人の男が驚いて言う。「PKKのハセオだあああああああああ
あ！」

「あ、まじかよ。」

こいつはゾルド隊員の中で軍を引くものの1人だ

「・・・せ・・・そいつをころせええ！」

役20人が一気に襲ってくる。

ズオオオオオオオン！「背中から2つの双剣が取り出された
ドン！ゴン！ズオオオ！」「速い！？」「高速移動のように敵を次々に
PKしていく

「うおおおおおおお！」大剣の男が振り回しながらきた！

ギューイイイイイイン「チッ！」パキーン剣が吹き飛ばされた

「しね・・・は！？」「呪獄の封印」ガガツガガツガア！

ハセオはオールマイティー使い双剣だけではない

シユン！、大鎌「ゼアアアアアア！」大鎌を振り回したドドドド
ド！

ぐああああああああああああああああ！

皆倒れたと思ったがゾウドだけはかるうじで生きていた

「ち・・・くしょ・・・サツ首元に大剣を叩きつけた

「て・・・めえ「ケストレル」にたてつきやがってどうなるかわかっ
てんだろうな！」

「・・てるか？」「は？」「蒼炎くそうえんをまとったPCくキャ
ラクター>トライエッジをしっているか？」「はあ！？てめえBB
S<皆の情報など>の怪談話本気にしてんじゃねーよ！」

・・・役立たずが、その場を去っていった残っているのは「ケスト
レル」の残骸だけ

ピユーン「あ？メール？だれからだ？？」

「・・・！！お、オーヴァン！」

オーヴァンは昔俺を助けてくれた人だ・・・そしてギルド<黄昏の旅
団>のマスター・・・

だが、こいつは突然姿を消した・・・志乃くしの>といっしょに
な！

いや、志乃は消えたわけじゃない、正確には消されただ

トライエッジに・・・

だが、1年も前なのに今更なぜオーヴァンが俺にメールを？

メールボックスには、「サーバー黄昏る幻のリーグマーデンに
きてくれ。」

「なんで、こんなところに、・・・」

フーン、ここか、「あ、オーヴァン！なんだよ？いったい！」

「ずいぶん強くなつたじゃないか・・・」「ああ、そうだよ！強くなるしかなかつたんだよ！あんたが消えてトライエッジの情報もつかめず・・・ただひたすら強くなるしかなかつたんだよ！・・・今ではPKKのハセオなんかつて言われてるぜ。」

「ああ、そうみたいだな。」そうみたいだな？知っていた？今までどこかに隠れていただけ？

「今日、ここに奴が帰ってくる。」奴？奴つて？

「トライエッジ」「な・・・！！！！！！！」

「そうだ、志乃を殺した張本人だ」

殺したというのはゲームの中なのに？と思うかもしれないがちがった・・・奴は・・・トライエッジは違った！奴が倒した敵は皆ゲームだけではなく

リアルでも意識不明になってしまう、目覚めることはない現に今までに何人もいる

「本当か？」「ん？」「本当かといっているんだ！」

ああ、とうなずく

ギリ！「殺す絶対に殺す！志乃を連れ戻す！」

この中だけ・・・

ゴーン扉が開いた・・・コツコツコツこの石造たしか

2「一年前」

「ハーセオーこつちきてー^^」「志乃なんだよ？」

この石造なんだかわかる？「・・・なんだよこれ？」

「この石造はね、「アウラ」っていわれてるのよ」

「アウラ？」「そう」「フーン、それがどうしたの？」

「・・・それだけだよw」「はあ？」

「うっそw冗談w本当はハセオと2人になりたかつただけw」

「え・・・ええ??」「ふふ」

笑いながら志乃は去っていった

3「トライエッジ」

「……なに思い出してんだろう」

グオングオン蒼い手のひらサイズの玉が飛んできた

「は!?!」

身をくあしとつきに逃げる

ガン!突然の大きな音ずーんずーんそこには両手に3つの刃を尖らせた双剣

「トライエッジ!こいつが……こいつが志乃を!」

グアアアアアアアアアアアアアアアアアアアアアアア!

「死ぬエエエエエエエエエエ!パキーン!え?折られた???」

「な……使用禁止だと?なぜだ?くつそおおおお!」

双剣を取り出しもう連打するガン!ガン!ガン!ガン!……だがすべてを1つの双剣で跳ね返されている「ちいい!このおお!……が!???」ドン!目に見えない速度の攻撃壁に激突した

「ぐ……あ……あ」

シューーンシューントライエッジの腕から緑色の物体が出てきた機械のようだ

「データドレイン」トライエッジは小さく声をだした。ごおおおオオオオオオオオオオオオオオオオ!

があああああああああああああああああああ!

あ……あ……あああ……

ぶっん

ザーー ここはどこだ?俺は……そうだ……トライエッジに負けた。だから俺も意識不明者になってしまふ……

真っ暗だトライエッジは?志乃は?オーヴァンは?何も見えない場所ただひたすらにぐるぐる体が回転するようだけだった無限の暗闇から1つの光が出た!

俺は意識不明にはならなく……生きていた!

第1「意識不明そしてトライエッジ」終

(後書き)

強くなれ・・・だと？あんたはいつたい俺になにを望んでいるんだ！？

仲間なんていらねえ！必要ねえんだよ！

第2「新しい仲間」

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になるうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n1944/>

kood//purasu

2010年11月12日20時48分発行